



# AZABU 2020

港区基本計画・麻布地区版計画書策定に向けた提言書  
令和2(2020)年3月  
区民参画組織 麻布を語る会 麻布地区政策分科会





第9回分科会で撮影

## 座長・副座長あいさつ



### 唯是 一寿 Kazutoshi YUIZE

区民参画組織 麻布を語る会 麻布地区政策分科会 座長

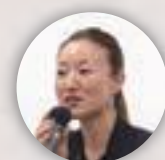
半世紀前、ここを“風街”と表現した作詞家がありました。1964年の東京オリンピック以降の開発や近代化で急激に失われた都心の姿を、“風街”という架空の街に見立てたのです。そこには、吹き抜ける風の爽やかさ、すきま風のような空しさ、吐息のような儚さ、熱風の暑苦しさ、寒風の冷たさ、…が混在していました。

時は流れ、再度の東京オリンピック・パラリンピックを目前にして、ここはやはり“風街”です。老若男女の離合集散、貴賤貧富の栄枯盛衰、花鳥風月の春夏秋冬、魑魅魍魎の跳梁跋扈、そして波乱万丈と諸行無常が目まぐるしく展開されています。

麻布の本来の魅力を手端的に言えば、それは「混沌」でしょう。混沌ではありますが、混乱ではありません。ここに生きる人々はいつからか、混沌を整理し、物事を秩序正しく組織し、互いに協働することを学びました。混沌を「多様性」に昇華させてきたのです。

今年度も、麻布に生き、麻布を愛し、麻布の現在と未来を真剣に考える方々が一同に集い、地区政策と地域事業を構築する作業に取り組みました。時代の進行が加速化し、空間が拡大し、視点が縮小し続ける今、私たちは限られた時間の中で、麻布について真剣に議論し、実現可能なアイデアの創出に全力を傾けました。

本提言書は、社会生活を営むすべての人が試すべき価値のある新領域を提示しているはずで



### 堂園 栞美 Masami DOZONO

区民参画組織 麻布を語る会 麻布地区政策分科会 副座長

今年より麻布地区政策分科会のメンバーとして、また副座長としてこの取り組みに参加させていただいております。麻布のまちが大好きな分科会の皆様、分科会を長い間支え続けてくださっているベテランの唯是座長、事務局の皆様とでチーム一丸となり、この先も麻布がさらに素敵で、暮らしやすく、繰り返し訪れたくなるまち“麻布”であり続けられるよう、様々な角度から議論を重ね、アイデアを出し合っ

てまいりました。この分科会のメンバーシップは、麻布地区のポジティブなパワーとキャラクターを凝縮した、真に多様性にあふれる構成となりました。回を重ねるごとにメンバー同士がさらにお互いを高め合うことが出来た有意義なフォーラムであったことを実感しています。私自身もこの取り組みから沢山の出会いと学びを体験させていただいており、この取り組みに関係する皆様の素晴らしいチームワークに心から感謝しています。

この提言書は、これまでの麻布とこれからの麻布を本気で大切に思う私たちの思いを一つにまとめ「実現」という形につくりあげていくための大切な青写真です。麻布地区のさらなる充実化に向けて、引き続きチーム一丸となって提言書の取り組みについて前向きにフォローしていきたいと思

います。今後ともよろしくお願

# 目次

## 座長・副座長あいさつ

1 提言書について .....	1
作成にあたっての考え方 .....	1
作成までの流れ .....	1
地域事業の位置づけ .....	1
2 麻布地区政策分科会からの提言 .....	5
分野Ⅰ かがやくまち(街づくり・環境) .....	6
提言1 六本木安全安心プロジェクト	
～ルール違反ゼロの六本木へ～ .....	8
提言2 「地域と事業所」防災連携プロジェクト	
～更なる共助体制の構築をめざして～ .....	10
提言3 みんなでエコっとプロジェクト	
.....	12
分野Ⅱ にぎわうまち(コミュニティ・産業) .....	14
提言4 みんなでまちをよくする「ミナヨク」	
.....	16
提言5 AZABU WORLD FESTA	
.....	18
提言6 麻布未来写真館	
～次世代へつなぐ麻布の記憶～ .....	20
分野Ⅲ はぐくむまち(福祉・保健・教育) .....	22
提言7 地方交流事業	
.....	24
提言8 地域サロン	
～ちょこっと立ち寄りカフェ～ .....	26
提言9 麻布の魅力探訪事業	
～あざぶ達人ラボ～ .....	28
正副座長による総括 .....	30
正副座長対談 .....	33
委員・事務局・支援事業者のコメント .....	39
3 麻布地区政策分科会について .....	51
目的 .....	51
令和元年度の活動概要 .....	52
委員構成(委員名簿) .....	53
平成30年度の活動概要 .....	54
わたしの声を区政に .....	55

# 1 提言書について

## 作成にあたっての考え方

区民参画組織 麻布を語る会 麻布地区政策分科会は、麻布地区に住み、働き、学ぶ方々が主体となって、麻布地区の将来を、港区麻布地区総合支所と共に考える分科会です。

令和元年度は、麻布地区総合支所が実施している9つの地域事業について、相互に意見を交換し、検討を重ね、提言としてまとめました。また、座長及び副座長が、分科会での意見を踏まえ、地域事業等の活性化につながる区民参画のあり方と安全安心などに関する提案をまとめました。

## 作成までの流れ



## 地域事業の位置づけ

麻布地区の実情や特有の課題、その解決の方策等を盛りこみ、麻布地区の魅力を高めるため、3か年の年次計画を立て、重点的に取り組む事業です。

## 【地域事業の紹介】分野Ⅰ かがやくまち（街づくり・環境）

### 六本木安全安心プロジェクト ～ルール違反ゼロの六本木へ～



#### 事業の目的

六本木地区の5つの主要課題「防犯」「環境美観」「路上喫煙」「道路使用」「営業活動」に対するまちのルールを規定した「六本木安全安心憲章」の浸透を図ることで、安全・安心なまちを実現することを目的としています。

#### 事業の概要

町会・自治会、商店会、事業所との協働によるキャンペーン活動、港区「六本木安全安心憲章推奨事業所等認証制度」の取組を実施しています。

### 「地域と事業所」防災連携プロジェクト ～更なる共助体制の構築をめざして～



#### 事業の目的

事業所の防災力の更なる向上と、災害時に地域と事業所が円滑に連携できるネットワークを構築することを目的としています。

#### 事業の概要

小地域でのネットワーク会議の設置を推進するとともに、事業所向け講演会等の実施や区ホームページなどにより情報発信を強化することで、情報が共有できる取組を実施しています。

### みんなでエコっとプロジェクト



#### 事業の目的

子どもたちを対象に、知る・見る・体験することを通じて、自然環境や生き物を大切にする心を育むことを目的としています。

#### 事業の概要

自然環境やリサイクルに関する取組を行う事業所等と連携し、参加する親子が自ら考え、学ぶことができるワークショップを実施しています。

## 【地域事業の紹介】 分野Ⅱ にぎわうまち（コミュニティ・産業）

### みんなでまちをよくする「ミナヨク」



#### 事業の目的

地域に愛着を持って地域活動を行う次世代のコミュニティリーダーを発掘・育成し、新しい地域のつながりを構築することを目的としています。

#### 事業の概要

次世代のコミュニティリーダーを発掘・育成するため、20代から40代を対象に行う講座「ミナヨク」を実施しています。また、講座修了生と地域との連携支援、修了生同士の交流イベント等を行い、継続的に地域コミュニティと関わる取組を実施しています。

### AZABU WORLD FESTA



#### 事業の目的

地域や行政が実施するイベント等に参加したことのない区民が、気軽に参加できるイベントを通じ、地域を知り、様々な人々と交流できる機会を創出することで、地域コミュニティの活性化を図ることを目的としています。

#### 事業の概要

麻布地区の商店会や企業、大使館等と協働し、外国人をはじめ、子どもから高齢者まで世代を問わず楽しめ、気軽に参加できるイベントを実施しています。

### 麻布未来写真館 ～次世代へつなぐ麻布の記憶～



#### 事業の目的

麻布地区の歴史やまちの移り変わりを、写真を通して広く伝えることで、地域への共感や愛着を深めてもらうことを目的としています。

#### 事業の概要

区民参画のもと、麻布地区の昔の写真を収集するとともに、大学・企業等との連携により、まちの変化をパネル等で保存、公開する取組を実施しています。

## 【地域事業の紹介】分野Ⅲ はぐくむまち（福祉・保健・教育）

### 地方交流事業



#### 事業の目的

豊かな自然を体験する機会を設け、児童の健全育成を促すとともに、他自治体との交流を通して、互いの地域の魅力や歴史を知る機会を創出することを目的としています。

#### 事業の概要

自然や農業、伝統文化などを体験できるプログラムを実施しています。あわせて、連携・交流を進める自治体のPRイベントを麻布地区内で実施する等、双方向の交流を推進しています。

### 地域サロン ～ちょこっと立ち寄りカフェ～



#### 事業の目的

高齢者が、住み慣れた地域で孤立することなく、安心して自分らしくいきいきと生活できるよう気軽に集い学べる場を提供するとともに、地域におけるボランティアを養成し、地域住民が互いに支え合う仕組みづくりを支援することを目的としています。

#### 事業の概要

高齢者が誰でも気軽に立ち寄れ「ふれあい・憩い」と「いきがい・自己啓発」の場である「地域サロン」を実施しています。また、他の地域事業等と交流できる機会を設けることで、様々な世代の参加を促進しています。あわせて、事業周知の充実や運営に携わる地域ボランティアの養成も実施しています。

### 麻布の魅力探訪事業 ～あざぶ達人ラボ～



#### 事業の目的

区民等が、麻布地区の歴史や文化などの魅力を知り、知ったことを次世代へ語り伝えることで、地域への関心や愛着を深めてもらうことを目的としています。

#### 事業の概要

区民主体による自主活動グループ「あざぶ達人ラボ」を設置し、麻布の歴史や文化などの魅力を伝える公開セミナーやまち歩きガイドツアーを実施しています。



## 2 麻布地区政策分科会からの提言



提言1

六本木安全安心プロジェクト ～ルール違反ゼロの六本木へ～

..... 麻布、違反やめるってよ



提言2

「地域と事業所」防災連携プロジェクト ～更なる共助体制の構築をめざして～

.....



提言3

みんなでエコっとプロジェクト

..... オヤコの知らない世界



提言4

みんなでまちをよくする「ミナヨク」

..... NO ミナヨク, NO LIFE?



提言5

AZABU WORLD FESTA

..... YOU は何しに麻布へ?



提言6

麻布未来写真館 ～次世代へつなく麻布の記憶～

..... バズろう #麻布未来写真館



提言7

地方交流事業

..... 行くぜ、舟形。行くぜ、麻布。



提言8

地域サロン ～ちょこっと立ち寄りカフェ～

..... 誘い誘われ地域サロン

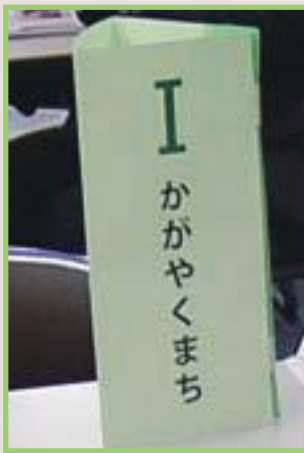


提言9

麻布の魅力探訪事業 ～あざが達人ラボ～

..... 麻布の果てまでイッテ Q!

# 分野I かがやくまち（街づくり・環境）



分野Ⅰ かがやくまち（街づくり・環境）



## 六本木安全安心プロジェクト ～ルール違反ゼロの六本木へ～

提言

1

### 麻布、違反やめるってよ

「ルール違反ゼロ」を目指し、取り組みの強化や周知方法を検討します。

#### 検証と評価

事業の効果はありますか？

賛同事業所は増加しているようだが、そのことがあまり知られていない。もっとアピールすべき！！

前回は提言したが、効果を上げるために、賛同事業所へのインセンティブが必要

前回の提言を反映し、新たな憲章デザインをキャンペーンに着用するベストや周知のためのフラッグなどに活用しています。

憲章デザインは住民に認知されていない、効果を検証すべきでは？

継続に向けた課題はありますか？

キャンペーン等への参加者が限定されている

外国人や区外からの来街者に対してどのように周知するか検討が必要

ルール違反に対して注意する権限を持っているわけではないので限界がある

路上喫煙に対しては、過料のような強制力も必要かも？

自転車の危険走行などにも対応すべき

新たな住民など、参加者のすそ野を広げよう！！

今後必要ですか？

取り組みの継続が効果アップにつながる

六本木という繁華街がある麻布地区では必要な事業です



## 提 案

# 六本木安全安心プロジェクト ～ルール違反ゼロの六本木へ～

なぜ改善？

取り組みに限界があります。  
活動の継続が重要です。  
より効果的な方法を検討し、地域への浸透を図ります。

なににする？

### 取り組みの強化

六本木交差点周辺を対象とする、まちのルールを強化する実証実験（→P.32）を提案します。

喫煙スペースを分かりやすく表示し、ルールの徹底を図ります。

自転車利用者のルール違反が目立つため、マナー啓発を積極的に行います。

### 周知方法の検討

憲章デザインの認知度と周知の効果を検証します。

外国人への積極的な周知を提案します。

外国人を含む麻布地区への全ての転入者に、転入時講習（→P.32）を実施し、まちのルールの周知を図ります。

### 参加者層の拡大

賛同事業所へのインセンティブ導入の検討を再度提案します。

「みんなでエコっとプロジェクト」と連携し、参加者層の拡大を目指します。

### 期待できる効果

取り組みの強化により、「ルール違反ゼロ」を目指します。

積極的な周知により、参加者層の拡大が期待できます。

### 想定される課題

実証実験に向けた準備が必要です。

デザインの検証方法の検討が必要です。

## 「地域と事業所」防災連携プロジェクト ～更なる共助体制の構築をめざして～

提言

# 2



### 検証と評価

この事業についてどう思いますか？

小規模事業所（個人事業所）を参加させる仕組みができていない

関心のない事業所への周知が課題

対象事業所の基準が分かりづらい

参加する事業所へインセンティブを与えていくべき

帰宅困難者に対して何ができるかが重要

そもそもこの取り組みを知らない人が多い

そもそも事業所の防災を地域事業でやるべきか？

事業者を対象とした事業なので、区民からの視点では評価しにくい

麻布地区の地域事業としてはふさわしくなく、地域事業からは外して既存の組織を生かして取り組むことが望ましい

麻布地区の防災についてどう思いますか？

港区はほとんどが共同住宅なので、平面だけでなく、これからはマンション防災など立体で考える視点が必要

商店会や町会へのなじみがなく、若い人は活動への参加をためらっている

防災委員制度のような取り組みがあると良い



なぜ廃止?

対象が事業所中心で、区民には分かりにくい事業です。  
防災は全ての区民が関心を持って取り組む必要があります。

## みんなでエコっとプロジェクト

提言

### 3

## オヤコの知らない世界

参加者が地域の環境に関心を持つ事業に改善します。

### 検証と評価

この事業についてどう思いますか？

実施回数を増やしたので、参加者が増えている

この事業の課題は何ですか？

地域の環境美化に子どもたちが興味を持てるものが必要では

学校教育との関係性は・・・？

参加者を麻布地区に限定していないけど、地域事業としてどうなの？

「みんな」って誰のこと？

地域環境に関心を持つにはどうしたらいいですか？

地域で行っている美化活動へ参加してみても

「六本木安全安心プロジェクト」と連携してみても

ごみ拾い競争など清掃活動に親しみを持てる工夫をしては

清掃活動の参加を表彰してみても

環境問題に取り組む企業の見学をしてはどうか

同じ内容の繰り返しだとマンネリ化につながりますか？

参加者から意見を聞いてみる

特に、子どもから率直な意見や感想を聞いて、次の展開を考えてはどうか

わたしたちにできること

子どもを連れて積極的に参加します。

継続  
改善



## 提 案

### みんなでエコっとプロジェクト

#### なぜ改善？

地域の環境を知る事業展開が必要です。  
参加対象者の明確化が必要です。  
コンテンツの充実を提案します。

#### なににする？

#### 事業内容の充実

地域の環境を知る取り組みを提案します。

#### 事業名称の変更

「親子でエコっとプロジェクト」への名称変更を提案します。

#### 参加者の意向把握

参加者にアンケートを行い、新たなコンテンツを企画します。

#### 期待できる効果

---

環境への関心が高まります。

#### 想定される課題

---

さらに魅力あるコンテンツの検討が必要です。

# 分野II にぎわうまち (コミュニティ・産業)



分野Ⅱ にぎわうまち（コミュニティ・産業）



## みんなでまちをよくする「ミナヨク」

提言

# 4

## NO ミナヨク， NO LIFE？

地域コミュニティの担い手を輩出できる事業に改善します。

継続  
改善

### 検証と評価

この事業についてどう思いますか？

「ミナヨク」を通じて、地域に入るきっかけがつかれるという点は評価できるが、事業としては目的が不明瞭

次世代のコミュニティリーダーとは具体的になんなのかわからない

リーダーというのはハードルが高すぎるのではないかな？

コミュニティリーダーを育成する目標に対して、講座が1年間（7回程度）と限定されている点については見直しが必要ではないかな？

地域のサポーターとして活躍できる人材育成を目的としては？

目的に応じて、講座への参加方法（1回限りの参加ではなく、継続して参加できる等）を見直す必要がある

20代から40代という枠についても検討が必要

地域で活躍する人材の育成という点は「あざぶ達人ラボ」と似ている

地域とのつながりはできていますか？

「ミナヨク」修了生へのフォローが足りない

「ミナヨク」修了生が地域で活躍しているのか調査が必要

講座で提案されたアイデアが実際に行われているか調査が必要

今後どうしたら良いと思いますか？

ちらし配布やポスター掲示について、ただただ多くばらまくのではなく、事業の目的に応じて配布数や配布場所等を考えていくべき

事業の目的の明確化や目的にあったプログラムの再検討が必要

## 提 案

### みんなでまちをよくする「ミナヨク」

#### なぜ改善？

地域コミュニティの担い手が不足しています。  
事業目的に掲げるコミュニティリーダーの役割が不明瞭です。  
「ミナヨク」修了生の活躍の場が必要です。

#### なににする？

#### 事業目的の変更

地域のサポーターとして活躍する人材の育成を目指します。

#### 地域コミュニティとの関係構築

他の地域コミュニティとの双方向の関係構築が必要です。  
地域事業への人材輩出が必要です。

#### 「ミナヨク」修了生の継続的な活躍

講座終了後も活躍できる場の提供が必要です。

#### 期待できる効果

「ミナヨク」修了生の継続的な活躍が期待できます。  
地域コミュニティの担い手不足の解消につながります。

#### 想定される課題

様々な地域コミュニティとの調整が必要です。

## AZABU WORLD FESTA

提言

5

### YOUは何しに麻布へ？

ミナヨク修了生が活躍できる事業に改善します。



#### 検証と評価

この事業についてどう思いますか？

前回の見直しで、2つの事業を統合して構築したため目的が不明瞭

外国人等を含む、これまで地域でふれあいがなかった人の参加ができているのか分からない

事業実施からまだ2年目で、評価しづらい

「AZABU WORLD FESTA」という名称と内容が合っていない

港区ワールドフェスティバル等、支援部で実施しているイベントとネーミング的にも違いが分からない

支所のイベントは1回限りのものが多いので、一定期間開催している点は良い

スタンプラリー等を実施するならば、商店街のメリット・デメリットをしっかりと把握する必要がある

テーマや地域を絞る等、3か年という計画期間を有効に活用すべき

「食」、「文化」、「歴史」と1年ごとにテーマを絞って実施することで、より深く地域を知ってもらうきっかけにもなる

SNSを活用したイベントに発展させることで、誰もが手軽に参加でき、麻布の魅力をもっと多くの人に伝えることができる

今後どうしたら良いと思いますか？

周遊型のイベントにこだわらなくてもいいのではないか

「国際性豊かな」という麻布地区の特性を生かした取り組みを、地域事業として対応する必要がないのであれば、廃止という考え方もある

日本の文化と海外の文化を紹介する「麻布のまつり」はどうか？

地域事業をつなぎ、受け皿となるイベントに再構築してはどうか？

わたしたちにできること

再構築される「ミナヨク」に積極的に関わります。

## 提 案

# AZABU WORLD FESTA

### なぜ改善？

● イベントの目的が不明瞭です。  
● イベントのあり方について再考が必要です。

### なににする？

#### 事業内容の再構築

● 麻布地区にふさわしいイベントのあり方を検討します。

#### 「ミナヨク」参加者や修了生の活用

● 「ミナヨク」参加者や修了生が主体となるイベントを構築します。

#### 地域事業との連携

● 「麻布未来写真館」や「あざぶ達人ラボ」と連携し、成果物の活用を提案します。  
● 地域事業の集大成となるイベントを長期的な視点で検討します。

#### 期待できる効果

● 「ミナヨク」修了生の活躍が期待できます。  
● 他の地域事業の活性化が期待できます。

#### 想定される課題

● 長期的な視点での企画や人材育成が必要です。

## 麻布未来写真館 ～次世代へつなぐ麻布の記憶～

提言

# 6

### バズろう #麻布未来写真館

情報発信の手法を改善します。

#### 検証と評価

この事業についてどう思いますか？

作成したパネルについては、現状、区や区の関係施設等での常設展示、限られた場所での企画展示での活用にとどまっている

パネルの活用については新たなアイデアが必要

企業へ貸出しや地域の商店街等へ貸出しを検討してはどうか

地下鉄の駅構内に展示ができないか

作成しているパネルは、主に古い写真と新しい写真の比較で構成されている。新しい写真、麻布の「今」を撮りためていくこととあわせて、古い写真の収集に力を入れることが必要

地元で古くから商いをやっているところには昔の写真がありそう

高齢者が集まる場所で呼びかけをしたらどうか

麻布の「今」を撮りためていくことも重要

「今」の写真を公募する取り組みとか？

パネル展で展示されているパネルは説明がないと分かりづらい

展示にもう少し気を使うべき

収集した古い写真を Web 上で年代別地域別に検索、閲覧できると良い

観光ボランティアガイドと連携し、使用できるように整理されると良い

今後どうしたら良いと思いますか？

これまでの取り組みを継続、充実していくことが重要

アナログ・デジタル双方の情報発信が大事！ さらに親しまれる工夫も必要

わたしたちにできること

麻布の「昔」と「今」の写真を探し、パネル展に足を運び情報発信をします。



## 提 案

### 麻布未来写真館

#### ～次世代へつなぐ麻布の記憶～

##### なぜ改善？

事業の認知度は向上しています。  
情報発信の充実が必要です。

##### なにをする？

##### 写真の収集

広く写真の提供を呼びかける必要があります。  
麻布の「今」の写真を募集し、パネル展等での活用を提案します。

##### パネル展の改善

演出やレイアウトの工夫が必要です。  
地域の公共施設や商店街でのパネル展の開催を提案します。

##### デジタルアーカイブの充実

収集した古い写真の整理が必要です。  
インターネット上で公開するための検討が必要です。

##### 期待できる効果

パネル展の演出やレイアウトの工夫で、より多くの集客が期待できます。  
広く呼びかけることで古い写真の収集が期待できます。

##### 想定される課題

蓄積された写真の効果的な管理方法の構築が必要です。

# 分野Ⅲ はぐくむまち（福祉・保健・教育）



分野Ⅲ はぐくむまち (福祉・保健・教育)



地方交流事業

提言

7

行くぜ、舟形。行くぜ、麻布。

山形県舟形町との交流を深める事業に改善します。

継続  
改善

検証と評価

この事業についてどう思いますか？

港区ではできない自然体験ができる、ニーズのある事業である

舟形町の魅力PRイベントの雰囲気がとてもよく、盛況だった

サマースクールの後に、麻布地区の参加者と舟形町の参加者で個人的なつながりをもっと生まれると良い

「地方交流事業」＝「サマースクール」の印象にならないように、夏以外にもイベントを開催すると良い

インターネットを活用した交流はどうか

災害時も相互連携が取れるようにする

参加した児童が大人になったらボランティアにくるようなつながりを

子ども同士、大人同士など・・・世代間のマッチングが有効では？

東麻布との関わりは今後も大切にすべき

どんな課題がありますか？

麻布地区外の学校へ通っていると、このイベントを知らない

事業のタイトルをもっと魅力的に

参加者のアンケートからフィードバックを得ることが必要

保護者へのフィードバックも必要

舟形町からのフィードバックも必要

平成 30 年度から埼玉県小鹿野町との交流がスタートしました。

## 提 案

### 地方交流事業

#### なぜ改善？

年間を通し、舟形町と様々な接点を持つことで、より活発な交流につながります。

#### なにをする？

##### 内容の充実

夏以外にもイベントの開催を提案します。

国宝「縄文の女神\*」の魅力の発信を提案します。

親しみやすい事業名への見直しを提案します。

##### 方法の検討

交流を深める取り組みを提案します。

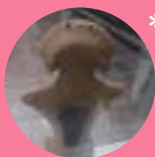
#### 期待できる効果

サマースクール以外のイベントを実施することで、舟形町とのつながりをより深めることができます。

#### 想定される課題

舟形町との新たなコンテンツの検討が必要です。

埼玉県小鹿野町との交流も引き続き検討が必要です。



##### \* 国宝「縄文の女神」

国宝「縄文の女神」は、平成4年（1992年）8月に山形県舟形町から出土しました。高さは45cm、重さ3.155kgで完形土偶の中で最も大きい土偶です。

縄文時代中期の作とみられ、人の姿を究極までに象徴しつつ、高い様式美を誇る姿は、学術的にも造形的にも日本を代表する土偶です。そして、この立像土偶は均整のとれた八頭身の美しい容貌から、いつしか「縄文の女神」と呼ばれるようになりました。

現在、麻布地区総合支所には、舟形町から贈呈された「縄文の女神」のレプリカが展示されています。

地域サロン ～ちよこつと立ち寄りカフェ～

提言

8

誘い誘われ地域サロン

他の事業との連携を深め、事業を拡充します。



検証と評価

この事業についてどう思いますか？

参加者がとてもいきいきとしていた

参加者の満足度も高く、成功事例

介護予防としても有意義な事業

高齢者が気軽に集う場があるのは良い  
さらなる定着を

目的を次のフェーズへ……

参加者は増えているが、男性の割合が少ない

「麻布未来写真館」や「あざぶ達人ラボ」との連携イベントでは男性の  
参加者が増えてきています。

男性は歴史が好き、男性は図書館によく行く……

今後どうしたら良いと思いますか？

リピーターが多いということは成功しているということ

リピーター以外へのアプローチをどうするか

クチコミや誘い方の工夫を！

子どもたちと交流してもよいのでは？

「ミナヨク」修了生等との連携は？

麻布地区の障害児施設等と連携できるのではないかと

麻布に関するイベントをもっとやってはどうか

わたしたちにできること

周囲の高齢者に参加を促します。

## 提 案

### 地域サロン

#### ～ちょこっと立ち寄りカフェ～

##### なぜ拡充？

他の事業との連携を深め、さらに内容の充実が必要です。

##### なににする？

##### 内容の充実

参加者のニーズを把握し、コンテンツの充実を検討します。

区の見学やサービスの案内を充実します。

##### 新たな参加者の確保

未参加者への周知方法の検討が必要です。

##### 他の事業との連携

「麻布未来写真館」や「あざぶ達人ラボ」と引き続き連携します。

##### 期待できる効果

「麻布未来写真館」や「あざぶ達人ラボ」との連携で、男性の参加者増が期待できます。

##### 想定される課題

参加者の安全面に配慮したイベントの検討が必要です。

麻布の魅力探訪事業 ～あざぶ達人ラボ～

提言

9

## 麻布の果てまでイッテQ！

蓄積した知識や成果物を活用し、  
幅広い世代が参加できる事業に改善します。

### 検証と評価

この事業についてどう思いますか？

資料などはとてもよくできている

活用内容の蓄積とアウトプット  
せつかくいいコンテンツがあるのにうまく活用できていない

「麻布かるた」の活用を考えたは？

古地図や地形の情報は防災の分野で役立てられるのではないかと

ラボのメンバーは高齢化している・・・次の世代にどう引き継ぐかが課題

活動が属人化している感がある

定期的なメンバーの補充が必要

メンバーに任期を設けてはどうか

まち歩きが平日の昼間だと、若い人は参加しづらい

今年度、まち歩きは回数を増やし、土日に実施しました。

今後も麻布地区に必要な事業ですか？

麻布地区ならではの事業である

他の地域事業と連携できると良い

同じような活動をしている団体と交流してはどうか

学校と連携してはどうか？

学童クラブとの連携は可能です。

柔軟なテーマ選びが必要、夏休みの自由研究のお手伝いはどうか

歴史や史跡だけでなく、ロケ地や花や鳥などにスポットをあてたらどうか

わたしたちにできること

講演会やまち歩きに参加します。

継続  
改善



## 提 案

### 麻布の魅力探訪事業 ～あざぶ達人ラボ～

#### なぜ改善？

蓄積した知識や成果物を、さらに活用する工夫が必要です。  
メンバーが固定化しているため、新しい人材の確保が必要です。

#### なにをする？

#### コンテンツの充実

麻布の「今」を発信する講演会等の実施を提案します。

麻布の「今」を巡るまち歩きの実施を提案します。

小中学生向けのコンテンツを新たに提案します。

#### 他の事業との連携

「ミナヨク」修了生と連携します。

「ちょこっと立ち寄りカフェ」との連携を深めます。

#### 期待できる効果

コンテンツの充実により、幅広い世代の参加が期待できます。

「ちょこっと立ち寄りカフェ」との連携により、知識や成果物を活用できます。

#### 想定される課題

学童クラブとの調整が必要です。

# 正副座長による総括

最後に、分科会での意見を踏まえ、正副座長が地域事業等の活性化につながる区民参画のあり方と安全安心などに関する具体的な提案をまとめました。

総 括

## 1

### 区民参画組織の改編

#### (1) 名称の変更

「区民参画組織 麻布を語る会」を「麻布カウンスル」に変更し、区民参画組織の全体会であることを明確にする。傘下の組織は「麻布カウンスル ○○○分科会」等と表記する。

#### (2) 委員会の設置

従来併存してきた3つの分科会のうち、主体的な活動が定着した会を「委員会」とする。

##### ① 地区政策委員会の設置

麻布地区政策分科会を「地区政策委員会」に改称する。

##### ② 地区広報委員会の設置

新たに「地区広報委員会」を設置し、麻布地区の広報の総合調整と企画立案を担う。麻布未来写真館分科会及び地域情報の発信分科会との連携を図る。

#### (3) 分科会の見直し

「分科会」は、地域事業等の実施を支援する。

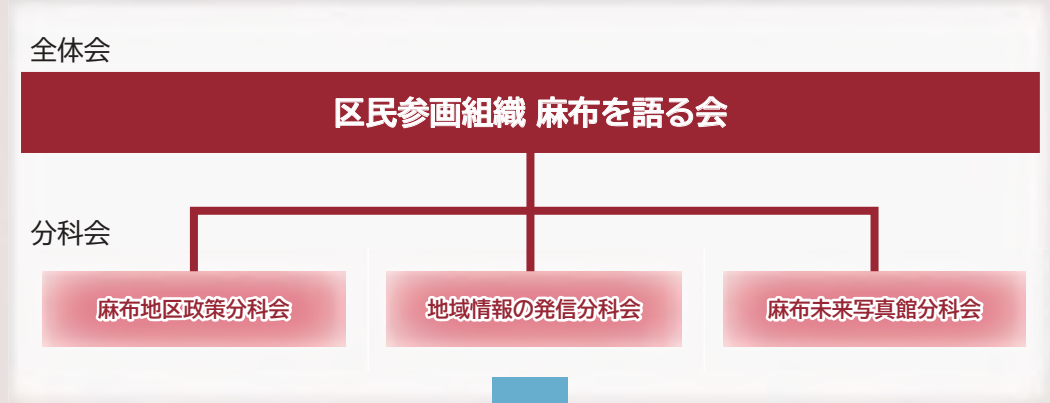
##### ① 地域人財育成分科会の設置

「地域人財育成分科会」を設置し、地域の担い手の育成を目指す。

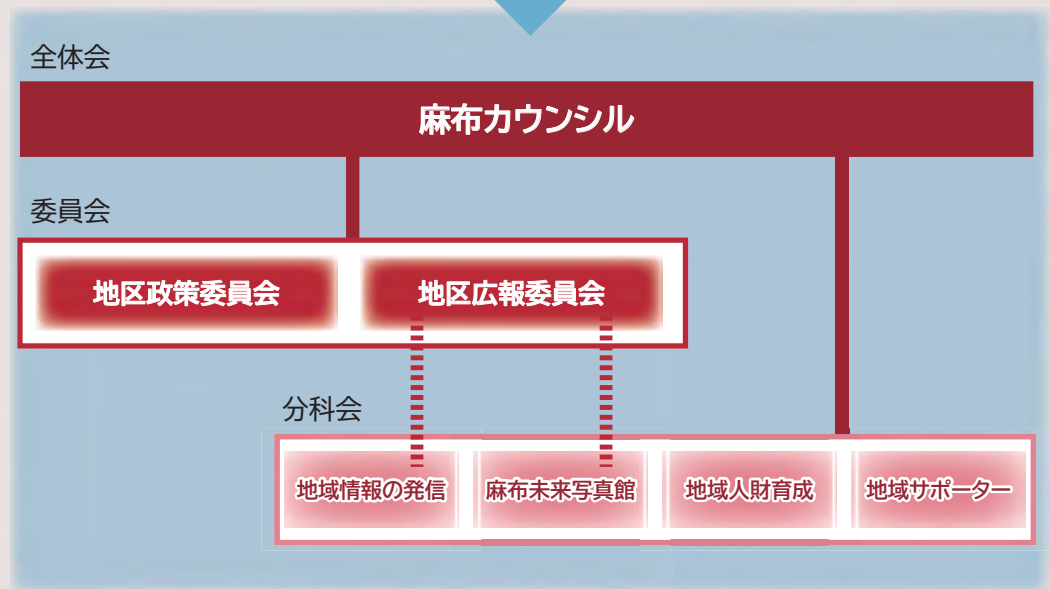
##### ② 地域サポーター分科会の設置

「地域サポーター分科会」を設置し、地域事業やイベントの援助者の確保を目指す。

現状の組織



改編後の組織

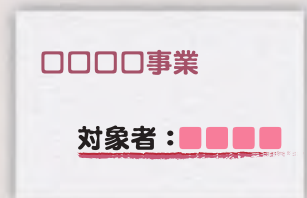
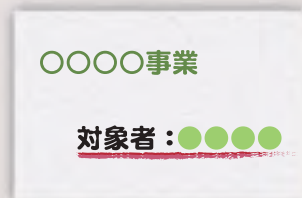


総括

2

事業対象者の明確化

事業構築の際、年齢・地域等の要素を考慮し、対象者を明確に定める。

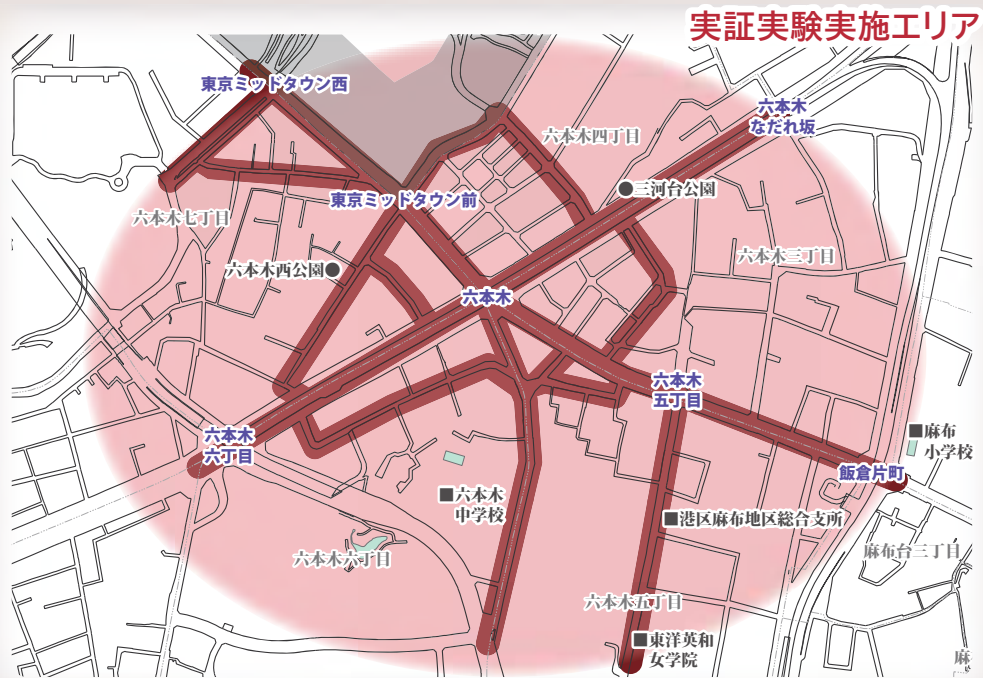


総括

3

### 六本木交差点周辺のルール強化

六本木交差点周辺の安全確保と美化推進を目的とし、路上喫煙、自転車の危険運転や路上放置、ごみのポイ捨て、客引き等への指導を実証実験として行う。路上喫煙については、過料の導入も検討する。エリアは図の範囲とする。



総括

4

### まちのルールの周知

実証実験「転入時講習」を導入し、外国人を含むすべての転入者にまちのルールやマナーの徹底を図る。転入時講習は運転免許の更新時講習をモデルに、転入届の処理時間を活用し、まちのルールやマナーを15分程度のスライドで視聴してもらう。



正副座長対談

“そんなアザブに騙されて”

令和元年度の議論を振り返り、麻布地区政策分科会の正副座長が、麻布のあり方、麻布の人々、麻布への愛をじっくりと語ります。

麻布地区政策分科会 座長

唯是 一寿 *Kazutoshi YUIZE*

麻布地区政策分科会 副座長

*Masami DOZONO* 堂園 柁美



令和2年2月、麻布地区某所にて対談

# 正副座長対談 “そんなアザブに騙されて”

唯是一寿 × 堂園 柗美

進行:遠藤 由香里(麻布地区総合支所 協働推進課)

**遠藤 由香里 (以下 E):**まずは、唯是座長、堂園副座長、1年間ありがとうございました。提言書も概ねまとめ、本日はおふたりに1年を振り返ると同時に、分科会についてぎっくばらんに語っていただきたいと思ひまして、この場を設定しました。

**唯是一寿 (以下 Y):**堂園副座長、1年間お疲れ様でした。今回参加してみて、いかがでしたか。

**堂園 柗美 (以下 D):**あつという間の1年でした。最初、募集があったときには、自分が住んでいる地区のことを知るチャンスと、軽い気持ちで応募したんですが、実際に関わってみると、知らないことだらけで……。安易に副座長をお引き受けしたんですが、ちゃんと務まっていたか？

**Y:**いえいえ、私は1年間、とても心強かったですよ。たぶん、副座長と私の“ツボ”が一緒なんだと思います。特に説明しなくても、私が考えている運営の方向性で一致していたんで、すごくやりやすかったです。

**E:**私から見ても、長いご経験から安定された唯是座長と、色々アイデアを出してくださって、場を和ませてくださる堂園副座長のコンビはとても安心できるもので、事務局としてもとても進めやすかったです。

**D:**そう言っただけだと嬉しいです。ランダムに区民が集まっているから、いろんな背景や個性の人がいて、まとめていくのも大変なんじゃないですか。座長はもう7年近く分科会に関わっていると伺いましたが、今までの苦労話なんかはありますか。

**Y:**私は平成25年度から参加したんですが、最初は混沌とした状態で大変だったことを思い出します。今のよう、地域事業を議論するという目的が明確でなく、国政や都政の話、はては「隣りの猫が……」みたいな私的な話まで何でもありで、全然方向性がまとまっていなかったんですね。それで発言の機会をいただいたときに、ここは麻布地区について、特に地域事業について議論する場だから、セグメントをはっきりさせて、関

係ないことは別のチャネルでやっていただくように要望したんです。そうしたら、2年後に委員の改選があったときに、多くの方から座長を引き受けてくれとお願いされ、ずっと務めることになっちゃった(笑)。

**D:**そんな時代があったんですね。私はてっきり最初から今の形でやってきたんだと思っていました。今は議論するポイントがはっきりしていますし、運営もきちんと組織的にやっているんで、過去の混沌が想像できません。

**E:**私は平成28年に協働推進課に配属され、事務局としてずっと分科会に関わっておりますが、古くからの委員も同じことをおっしゃっていました。分科会は相当、時代と共に変化してきたんだと思います。平成18年7月に、麻布地区で区民参画組織の活動が始まって今年で13年目ですが、そろそろ組織のあり方も変わる時期に来ているのかなと感じています。座長はどのように見ておられますか。

## みんなが「ミナヨク」

**Y:**混沌だったり、漠然だったりしたものの整理整頓は目途がつき、皆さん、目的や方向性が明確になってきたんじゃないでしょうか。限られた予算ではありますが、地域事業という枠組みの中で可能なことは何でもトライしてみようという意識が醸成されていて、次のフェーズに進んでもいい段階に来ていると思いますね。

**D:**私は今回、分野Ⅱのグループに入っていたんですが、「ミナヨク」の活動がすごく麻布らしいと思ったんです。ミナヨクはもっと拡大してもいいんじゃないでしょうか。

**E:**ミナヨクは平成27年度からスタートしました。委員の森田さんが参加されていた第1期生から生まれたアイデア「おつかい大作戦」は、ヒルズマルシェを会場として今でも定期的開催されていて、子どもたちがお買い物体験を通して地域の大人たちと触れ合うきっかけとなっています。

**Y:** まさに先ほど副座長のおっしゃったところがポイントで、ここ数年、私も感じていたんですが、「みんなで街をよくする活動」がミナヨクとすれば、すべての区民参画活動はミナヨクなんじゃないかと。六本木安全安心プロジェクトも、麻布未来写真館も、ちょこっと立ち寄りカフェも、政策としての分野は違うけど、全部“ミナヨク”なんじゃないかって。

**D:** この際、区民参画組織なんていう行政チックな名称はやめにして、「ミナヨク 麻布地区政策分科会」とか「ミナヨク ○○事業」とかいう名称に変えてもいいんじゃないですかね。

**Y:** そうですね。名称も含め、現在の活動のスタイルに合った組織体制が必要と感じています。古くから関わっておられる方々は、旧来の“ゆるい”感じに慣れちゃっていると思うんですが、もっと多くの区民に参加してもらうために、一度、その受け入れ態勢を整えなければならない時期に来ていると思いますね。

**D:** 私は分科会に参加してみて、港区は人材が豊富だと、改めて実感したんです。私自身も外資系企業に勤めているんですが、委員の方々も本当に多種多様な経歴や背景をお持ちですよ。戦前から代々定住しているジモティ、東京に憧れを持って出てきた若い人、大使館も多いから外国人もいるし、こういう方々をミナヨクという人材バンクに集めて、行政ではできないニッチなところを考えてもらったら、いろんな発想や施策が出てくると思うんですよ。ミナヨクは今後、人材の発掘と育成もプログラムに含めていくべきだと思いますね。

## “ママ友”は侮れない???

**D:** 人材の発掘と関係する話なんですが、私、“ママ友”のネットワークを活用できないかと思うんです。私自身もワーキングマザーですが、子育て世代のニーズやアイデアを取り込むチャンネルが区民参画組織にあってもいいんじゃないでしょうか。

**Y:** それ、面白いですね。私も以前から、政策



分科会に「ママ友部会」があってもいいんじゃないかと思っていました。委員の飲み会の席で、そんな話題で盛り上がったこともあります。

**D:** 実現できれば、子育てに悩むお母さんたちの情報交換の場もできるし、そこから友達の輪が広がって、区民同士の横のネットワークにもつながっていくんじゃないかしら。

**Y:** 子どもを持つ男性の委員から、「パパ友部会もお願いします」という声も出ています。お父さんたちも、情報交換の場が欲しいんじゃないかな。ママ友部会と言わず、是非、パパ友部会もお願いします（笑）。

**E:** そういう発想は、区の職員からはなかなか出てこないの、とても参考になります。

## 広報の充実

**E:** ところで、区民アンケートでは、こういった地区の活動が知られていないような意見も多いのですが、活動の知名度や認知度を上げていくにはどうしたらいいでしょうか。

**D:** やっぱり仕事や家事で忙しいんで、区の広報物を見る機会はなかなかないですよ。あつたとしても、マンションのポストはチラシもたくさん入っているので、そこに埋もれちゃってる可能



性もあるかな……。スマホで簡単に見られるといいんですけど……。

**Y:** ちょっとズレちゃうかもしれませんが、テレビの視聴率を例に挙げれば、視聴率が 20% を達成すれば、番組としては大成功なわけで、認知度も 20% くらいになっていれば、社会的には達成されていると考えていいんじゃないでしょうか。ミリオンセラーと言われるヒット曲も、人口比で考えたら、1 億人のうちの 100 万枚だから、1% ですよ。社会的認知度って、そんなものかと思います。

**D:** こういう活動の場合、コアな区民とそうでない区民との間で関心の度合いに差があるのは仕方がないと思います。全区民に協働と参画を期待できないですよ。でも、街をよくすることには関心を持ってほしいです。別に活動に参加しなくても、路上喫煙をしないと、ゴミ出しルールを守るとか、ポイ捨てしないと、区民としての基本マナーを守っていただきたいです。そういうふうに、区民の質を向上させていければ、それが事実上の認知度になるんじゃないでしょうか。

**Y:** 先ほどの組織の改編ともかぶるんですが、地区の広報も区民参画組織でできたらと考えているんです。地区広報分科会を設置してもいいんじゃないかと。今、麻布未来写真館が地域事業でありながら分科会の一つにもなっている。こういう分

かりにくいところを整理する意味でも、広報分科会を設置して、写真館とザ・AZABU をその中の部会にしたらいいと思います。今後、ミナヨクを前面に出していくということになれば、「ミナヨク 麻布地区広報分科会」という感じかな。

**D:** それ、いいですね。区の広報となると、いろいろ基準が厳しくて自由に発信できないようですから、広報をある程度区民に委ねてくれば、SNS の活用とか、新たな取り組みが生まれてくるように感じます。地区広報分科会の設置は、私も賛成です。私、学生時代、メディア論を専攻したんで、そっちのほうが楽しめそう（笑）。

## “港区女子”なるものは存在しない???

**E:** 話はガラッと変わりますが、おふたりが生活者としてお持ちの、この街のイメージについてお聞きしたいと思います。“麻布”をどう捉えておられますか。

**Y:** 生活者としての印象とメディアで語られるイメージとのギャップに驚いています。最近、“港区女子”なるものが世間を賑わしていますが、あんなものは、生活者からすると笑い話。

**E:** 六本木や麻布十番に夜な夜な繰り出し、派手に遊んでいる女子のことですね。

**Y:** 確かにバブルの時代からヒルズ族の時代を経て、どの時代にもそういう人がいることは事実ですが、この街に根差している生活者は、もっと堅実で地味ですよ。

**D:** 最近はメディアが港区女子を盛り過ぎで、港区を訪れて弾けている女子と本当の港区女子が混同されてしまっているようで、六本木や麻布十番の良さが正確に伝わっていないように思えます。少なくとも分科会のメンバーには、六本木で大騒ぎしている雰囲気的女子はいません。

**Y:** 世間のパブリックイメージと生活者の印象とを混同しないように気をつけています。あちこちに〇〇ヒルズがあるから、みんな高額所得者とか（笑）。



根づいている区民はタクシーに乗らず、100 円のちいばすを利用しています。もっと言えば、区内は徒歩です（笑）。

**E:** 堂園副座長はいかがですか。

**D:** 私も全く座長の意見に同感です。地元の皆さんは、むしろ落ち着いた雰囲気。家族や自分の時間を大切に、静か〜に過ごしています（笑）。繁華街はこの街のとある一面で、近所を娘と歩いていても下町感がありますし、文化あり、歴史あり、美味しいパン屋さんありの、住んでいる人に優しい、バランスのとれた街だと思っています。

## これからの麻布

**E:** 最後に、今後の区政を盛り上げていくために、何か“提言”したいことはありますか。

**D:** 麻布に住んでいる人って、明確な意識を持ってここに住んでいると思うんです。だから、行政はそういう人たちの満足感を高めていくような政策や施策が必要になってくると思います。何も考えないで、ポーッと平均的な行政をやっていると、どんどん時代は進んでいってしまう。それくらい世界の進行は慌ただしいですから。

**Y:** そう。だから上手な生活者は何をまずデザインするかと言えば、やっぱり「時間」なんです。麻布の人たちは、要は自分の時間をデザインすることから始まっているわけ。その中には仕事もそうだし、健康とか、娯楽とか、様々な要素がありますが。

**D:** なるほど、今まで意識していなかったけど、自分の環境は自分でデザインする！という、まさに目的意識を持った人々が集まっていますね。「時間」のデザインは私たちにとって特に重要ですから。そういえば、東京の前に住んでいた NYC のアップパーイーストサイドも、人と環境が麻布と似ていて、みんな“I LOVE NYC”って感じでした。分科会の仲間も、みんな“I LOVE AZABU”ですよ（笑）。

**Y:** だから、行政の方々には、時間という有限の資源を有効に活用できるような動きをお願いしたいと思っています。特に近年、日本全体では、環境や疫病の問題なんかがあって、一人ひとりにとって危機感はあるんだけど、一方で行政は対応が遅いじゃんというシラケの意識が強くなっての感じも受けます。

**D:** 何ともできないもどかしさがシラケ感を生むんですよね。でも、それではダメで、自分自身が当事者であるという意識で行動しなければと思うんです。主体性をかなり強く持たないと。そう考えると、港区は、というか、この分科会は、自分が当事者、自分が主役という気持ちにさせてくれる集まりになっていると思うんです。

**Y:** その「自分が主役」というところが大事で、行政に何かをしてもらわなきゃなくて、やっぱり自分が当事者であるという意識が重要なんですね。世間から見れば麻布は、格差社会とか階層社会とかに見られているかもしれないけど、実態はそうではなくて、良い意味で「生き方の意識の階層化」が進んでいる地区なんだと分析しています。それは、「自分が主役」、自分が当事者なんだという意識を持って生きているか否かという意味において。

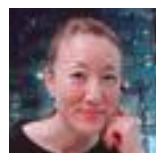
**D:** そういう意味での“意識高い系”であることが、これからの時代の区民のあり方かも。なんかいい結論になりましたね（笑）。

**E:** 本日はどうもありがとうございました。



唯是一寿

六本木在住の独身貴族。平成 25 年度から麻布地区政策分科会に参加、平成 27 年度から座長を務める。



堂園 亜美

麻布台在住のワーキングマザー。今年度から麻布地区政策分科会に参加、副座長を務める。

# フォトギャラリー ～麻布地区政策分科会写真館～

プレ分科会  
平成31年4月24日(水)



第1回分科会  
令和元年5月16日(木)



第2回分科会  
令和元年6月28日(金)



第3回分科会  
令和元年7月16日(火)



## 委員・事務局・支援事業者のコメント

“麻布の中心で、愛をさけぶ”

「協働と参画」により進めてきた「区民参画組織 麻布を語る会 麻布地区政策分科会」の今年度の活動を振り返り、提言書の作成に携わった委員に加え、事務局、支援事業者を含む27人のコメントを掲載します。

(50音順・原文ママ)



### 大竹 葉子 Yoko OTAKE 分野IIにぎわうまち

住み始めた街のことをもっと知りたい、もっと良くしたいという軽い気持ちで、初めて政策分科会に参加しましたが、区の方々も参加されている皆様もとても麻布のことを愛しておられ、よりよく住みやすい街にしたいという思いにあふれた会合でした。

そういったみなさまと良い議論を重ねることができたと思います。

今後も、麻布をよりよくするための活動を継続していきたいと思います。



### 岡本 進 Shin OKAMOTO 分野Iかがやくまち

この度は麻布地区政策分科会に参加させて頂きましてありがとうございました。

地域の活動というものに参加するのは初めてで、そもそも地区という単位で提言することにある程度限界があり、どのように考えればよいのだろうと思って参加したのですが、日頃地域活動に参加されている方々や地域に根ざした生活をしている方々の積極的な意見や提案を聞き、ここは麻布地区を真剣に考えている方々の集まりだなと感じました。

なかなか提案らしい提案をすることが出来ずお役に立ててなかったように思っておりますが、私としては貴重な経験をさせていただきました。今後も地域に貢献できることがあれば努力していきたいと思います。



### 小畑 至弘 Yoshihiro OBATA 分野Iかがやくまち

分科会メンバーの皆さんや総合支所の皆さんのご尽力で、毎年少しずつ良くなってきているように感じています。最初は各人が経験してきた役所のプロセス、市民活動のプロセス及びサラリーマンや経営者のプロセスの下でなかなか理解が深まりませんでした。今は議論の進め方や結論の出し方に分科会なりの形ができてきたように思います。

これまでの業務を今後も上手く回していくだけでなく、分科会にもっと大幅な権限をいただいて、更に区民参加型の区政を進めていってもらえると、もっと大きな成果が出せるのではないかと思います。



**鍵谷 芳勝 Yoshikatsu KAGITANI 分野I かがやくまち**

私が麻布地区の多様性に富む問題点に注視し始めたのは、14年前に保護犬（レスキュー犬）の里親（ライフパートナー）になった時でした。この子とこの街で幸せに暮らすには、この街がどうあるべきか、どうするべきかを考え始めたのです。この街は、大使館や多国籍企業が多く、多種多様な人々が集まる地域です。さらには、世界屈指の繁華街でもあり、美術館や学校が点在するアートの街でもあり、多機能性のある街なのです。ただ同時に、負の部分が多い地区でもあります。この街で幸せに生活するためには、この街を今後、世界の模範の街として発展させていくために必要な最低限のルールとは何か？ まず、ブロークン・ウィンドウ理論の実践から始めることが必要だと考えましたが、独りでは限界がありました。幸い麻布地区には、さまざまなボランティア組織があることに気が付き、六本木安全安心パトロール隊、六本木をきれいにする会、六本木クリーンアップなどのボランティア活動に参加し始めました。そこで六本木の街の現状に真剣に向き合う方々と出逢い勇気づけられました。

街の在住者やこの地区に関心を持つ在外者と、この政策分科会で、皆さんと議論し闘える機会を得て、心強いと同時にうれしく思っています。また、このような機会を与えていただいた麻布地区総合支所協働推進課の皆様にも感謝いたします。これからも、この街を安全安心で幸せに暮らせる街にするために、私も老骨に鞭打って力を尽くしていきたいと思えます。



**加生 美佐保 Misaho KASHO 分野I かがやくまち**

様々な意見に聞く耳を持つか否かで、会議の質が全く違うということを痛感しました。



**片岡 佳和 Yoshikazu KATAOKA 分野II にぎわうまち**

この地区には、人情味あふれる旧き良き街の賑わいと、時代の最先端の楽しみ・華やかさがあり、国際色も豊かで、そしてさらに、パワーあふれ、この街を良くしていこうという意識の高い素敵な方々がいっぱいいます。こうした素敵な方々を繋げ、コミュニティの和を広げていくことで、この地区は、もっとワクワク楽しく、居心地のよい街になっていくと思います。

今回の提案は、そのほんの一助かもしれませんが、今後の検討会で、よりブラッシュアップされていくことを期待します！

# “麻布の中心で、愛をさけぶ”



## 北野 健二 Kenji KITANO 分野Ⅲはぐくむまち

縁あって住み始めた街でどのように施策や取り組みが進められているのか覗いてみたい、知っておきたい、チャンスがあれば関わってみたいという思いから応募しました。メンバーの皆さんとの活動を通じて改めて気づかせていただいたことは温故知新。今後は区民の1人としてどのような関わりができるかを考えながら引き続き取り組んでいきたいと思っています。

課題を挙げるなら、前回までの分科会活動が分かっている前提の進行だったことのように思います。振り返る時間を十分に取っていただきたいと思います。また提案としては、ミナヨク活動をあげさせていただきます。分科会での取り組みは、即ち麻布地区の将来を話し合うものなので、ミナヨクのプログラムの一つに組み込んでみることは一考かと思います。

今回は参加させていたきありがとうございました。



## 金原 優子 Yuko KIMBARA 分野Ⅲはぐくむまち

麻布地区のことを色々を知ることができて、とても勉強になりました。

また、皆様の意見を聞いて、これからの生活と麻布地区の発展を考えていく姿に感動を受けました。少しでもたずさわることができて感謝しています。



## 胡 世梅 Shimei HU 分野Ⅱにぎわうまち

麻布地区は大使館が50か所、港区の中で最も数が多く、居住する外国人数が多い地域です。「麻布といえば坂」、港区には89の坂がありますが、そのうち麻布地区には大小42の坂があります。江戸時代、坂の上は大名の屋敷、坂の下は庶民の家、下町情緒溢れる街並みだったといわれています。・・・こんなことやあんなこと、この分科会に参加してから、初めて知りました。1割以上が外国人だと言われているこの地域、一人の外国人として分科会に参加でき、貴重な体験となり、大変勉強になりました。知ると暮らしがもっと楽しめることを一人でも多く周りへ発信し、地域活動に関心を持ってもらえるよう皆さんと一緒に頑張りたいです。



**小島 孝治 Koji KOJIMA 分野Ⅲはぐくむまち**

麻布地区政策分科会に初めて参加させて頂いた2019年4月24日（水）から、提言書をまとめた2020年1月30日（木）までの282日間、非常に有意義な経験ができました（まだ分科会は続きますが・笑）。志を同じくした区民の皆様との出会いはもちろん、区政を運営されている方の顔が見えることで、皆が本当に真面目に取り組まれているのだという事も実感しました。

少し残念だったのは現状を確認する前に「提言書作成」が先行する形になってしまったことで、6回目の会合の前になって初めて有志で現場を拝見した際の衝撃は今でも覚えています。当初想定していたものとの違い生き生きと交流されている高齢者を目の当たりにして、議論・提言のスタートラインがズレていたことに気が付きました。もっと早く現実を知っていれば、より具体的、より効果的な提言ができたのではないか、と反省しています。

私は事業として港区を中心とした高齢者の生活や知的支援を行っており、「行政は頼りにならない」という声をよく聞いていたのですが、まだまだ現実とのミスマッチがある事を認識し、良くする余地がある事も確信致しました。引き続き、よろしくお願ひ致します。



**佐々木 和志 Kazushi SASAKI 分野Ⅱにぎわうまち**

自分が住んでいる地区をもっと知りたい、行政がどんな思いで地区の施策を実施しているのかを知りたいという興味から参加しました。

実際に参加をしてみると、麻布地区で行われている取り組みは知らないことだらけでしたが、回を重ねるごとに理解が深まり、分科会に参加するのが非常に楽しかったです。

グループメンバーもダイバーシティに富んでおり自分自身の知見や価値観がブラッシュアップされた気がしました。そこから、交友が生まれたことが何よりの財産です！

私の2歳の娘が急遽参加した時も、みなさん笑顔で迎えていただきありがたかったです。アットホームなコミュニティの中でいろいろな意見交換ができました。この麻布地区がもっとよりよい街になるようにこれからも何らかの形で関わっていこうと思います！！

# “麻布の中心で、愛をさけぶ”



## 塩谷 彩奈 Ayana SHIOYA 分野Ⅱにぎわうまち

普段、なかなか近所の方々とは交流することがないので、麻布地区にお住まいの方々と関わることができて、とても勉強になりました。

私を含め、皆様、麻布地区を大切に思う方々ばかりで、良い議論ができたと思います。

このような機会を与えてくださり、本当にありがとうございました。



## 城川 三次郎 Sanjiro SHIROKAWA 分野Ⅱにぎわうまち

2019年4月から、参加させていただきました。

私は、3歳から今日に至るまで、65年間、東麻布に暮らしてきました。幼稚園から高校まで、麻布と名のつく学校に通い、海外勤務等で一時期離れることはあっても、東麻布に住み続けてきた私にとって、何らかの形で、地域に恩返しをしたいという気持ちは、人一倍強いと考えております。

その意味で、今回、政策分科会のお話をいただき、喜んで参加させていただきました。他のメンバーの方たちとの話し合いを通じて、麻布を思う気持ちの強い人々が、大勢おられることが分り、大変うれしく思うと同時に、色々な考え方に触れることで、町会等では出会えなかった新しい見方も学ぶことができたと考えております。このような、企画を考え、一年間事務方に徹して、我慢強く我々の作業をサポートしていただいた、事務局の皆様の苦勞に、先ず、心より感謝するものです。

出張等で、欠席するときも多々ありましたが、何とか提言書という形で、少なくとも麻布地区をより良くしていこうという気持ちは、形に残すことができたと考えております。分科会のメンバーの皆様に感謝申し上げたいと思います。今後、機会がありましたら、この提言書を、更に掘り下げ、具体的な活動に展開していくことを、真剣に考えていきたいと考えております。

さて、我々の分科会のテーマは、「にぎわうまち」でした。日本の他地域と比べて、既に十分賑わっている麻布を、更に賑わいのある町にする必要があるのか。再開発で、急速に変貌しつつある麻布地区が、更に賑わう街となることは間違いありませんが、反面で、住居費等の高騰を招き、“住みにくい街”を生むことともなりかねません。このジレンマをどう解決していくか。民間主導の再開発等の活力を生かしながら、住みやすい、活力のある街をどのようにデザインしていくのか、問題は極めて大きく、かつ複雑だと考えております。

ともあれ、これらのジレンマを踏まえつつ、江戸時代に遡る歴史を有し、伝統文化と新しいカルチャー、高い居住外国人比率、豊かな自然環境と都市の利便性を兼ね備えた麻布地区を、更に賑わいのある、住みやすい街にしていくには、どうすべきか。我々のできる範囲で、考えながら、一步一步解決していくしかありません。来期以降の政策分科会の活動に、大いに期待したいと考えます。

一年間、本当にありがとうございました。



**田中 亜紀 Aki TANAKA 分野Ⅲはぐくむまち**

麻布地区で展開されている様々な地域事業について、実際にこの分科会に参加して、非常に身近なものとしてとらえることができました。私が入ったのは＜分野Ⅲはぐくむまち＞グループです。例えば、「ちょこっと立ち寄りカフェ」の現場では、高齢者の方々が生き生きと楽しまれている様子を拝見しました。年齢を重ねた自分の将来を想像しても、このような集いの場があることは心強く、より充実した内容とするにはどうしたら良いか真剣に考える機会となりました。また「地方交流事業」の山形県舟形町との交流については、昨年から支所のロビーに飾られている国宝「縄文の女神」のレプリカが、同町とのつながりの中で贈呈されたものであることがわかり、親しみを感じました。交流の輪がさらに広がることを願います。

毎回の分科会では、その事業の一つひとつについて、提言書作成に向け委員と支所のスタッフがひざ詰めでディスカッションを繰り返しました。人生経験、社会性豊かな方々の多様な意見をお聞きすることができ、視野が広がりました。非常に貴重な時間だったと実感しています。



**橋本 吉明 Yoshiaki HASHIMOTO 分野Ⅲはぐくむまち**

今回初めて参加させてもらい、非常に貴重な体験となりました。

子を持つ親としての目線、高齢となった両親を持つミドル世代としての目線、昔から住んでいる地元民としての目線。当初この分科会が始まる前、様々な目線から意見を出すことで貢献出来るのは？と考えておりました。が、いざお題を与えられると課題抽出や課題に対する解決策を明示することは非常に難しいと痛感しました。同じチームの皆さんと一緒に話し合いながら進めていくことである一定の方向性は見出すことは出来ましたが、貢献度合いからすると申し訳なく思っています。

ただ今回参加したことで、今まで見えなかった部分や気づけなかった部分もたくさん見えました。この麻布地区に住みたい！ずっと住みたい！と思ってもらえるような環境を地域住民みんなで作り上げていくことが大切であり、私も一人の住民としてもっと様々な地域の活動に参加し、麻布エリアの発展に貢献したいと思いました。

これからもどうぞよろしくお願いします！





## 堀山 正雄 Masao HORIYAMA 分野Ⅲはぐくむまち

港区の区政の仕方、細かな施策に感銘を受け、機会を頂き、麻布地区政策分科会にこの一年参加させて頂きました。私が検討に加えて頂いたグループは福祉・保険・教育でした。主に「地方交流事業」、「地域サロン～ちょこっと立ち寄りカフェ」、「麻布の魅力探訪事業～あざぶ達人ラボ～」の3つの事業について、みなさんとの議論をもとに提言をまとめました。印象に残っているのは、地域サロンになります。こちらは日本において大きな課題となると考えられる独居孤立高齢者の交流を行うために行われている事業です。実際に地域サロンについて訪問してみると、高齢者の方々が活気を持って地域と交流していることが分かりました。高齢者が活気を持って活動できている地域として麻布十番は他のエリアにおいても参考となるモデルケースになると考え、ここに本事業の目的となる次世代へ繋げるという軸や、地域の課題解決の担い手となる軸をもとにみなさんと提言をまとめました。データ（個人情報保護法等）の取り扱いの観点から、エリアに在住する独居高齢者への効率的なアナウンスについては将来的な課題となりましたが、麻布十番地域に仲間ができ、心地いい時間を過ごすことができました。機会がありましたら今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。



## 峯崎 恵紀 Yoshinori MINEZAKI 分野Ⅱにぎわうまち

この1年余り、麻布地区政策分科会に初めて関わらせていただき、麻布地区で行われている施策についてよく知ることが出来ました。分野Ⅱのにぎわうまちで、何回か経験されている方々と初めてのメンバーで、チームワーク良く議論が進められて良かったです。

テーマとなった「ミナヨク」と「AZABU WORLD FESTA」は初めて知った活動でしたが、参加された方々からのご意見を伺い、自分なりの意見も述べる事ができました。「麻布未来写真館」は毎年拝見していますが、自分が活動している「港区観光ボランティアガイド」との提携でより活用されるのではと思い、提言させてもらいました。

自分は麻布地区に50年以上住んで地域活動もしていますが、メンバーには越えてきて間もない若い方も多かったので、希望者を募って麻布の街歩きガイドツアーをしました。街の歴史を知ってもらうとともに、メンバーとの交流も図れて嬉しかったです。地域社会を良くしようとの思いは素晴らしいですが、認知度の低さや協力体制の不足などで、十分に効果を上げていない所も見受けられました。この機会を体験する事で、様々な施策への視野がひろまったので、今後はできるだけ協力していきたいと思いました。



**森田 麻耶 Maya MORITA 分野Ⅱにぎわうまち**

継続してリーダーをさせて頂き、皆さん街に期待する思いが強いこと、忙しい中でも定期的に集まり麻布地区が大好きなんだと感じました。分野Ⅱでは、知らないと言っていた事業内容も個々で積極的に調べ、参加し、港区の掲示板や広報、SNS をみて、知ろうとする方が増えました。是非、これからも様々な行事に参加して、参加型の街づくりができればと思っています。



**吉野 茂 Shigeru YOSHINO 分野Ⅲはぐくむまち**

港区基本計画・麻布地区版計画書の策定に向けた提言をまとめるというテーマのもと集まった麻布地区政策分科会のメンバーと議論を重ねる中でそれぞれの麻布への想いを聞くことができ、非常に有意義な活動になったと感じています。

今回の提言書は、麻布の街がより魅力的になるように、安全・安心で過ごしやすい街になるよう麻布地区に集う全ての人々のことを想った内容になったのではないかと思います。

このような活動に参加でき、分科会のメンバーに出会えたこと、会の運営を支援して下さい事務局・支援事業者の方々に感謝します！！



**吉松 正敏 Masatoshi YOSHIMATSU 分野Ⅰかがやくまち**

麻布地区政策分科会には3年前から参加しており、今回は分野Ⅰのリーダーを務めさせて頂いた次第です。構成メンバーの立場からは、私が現役時代に国の委託事業を行っていた経験から、プロジェクトの費用対効果を提起しました。税金の使い方では、納税する側を常に意識することが必要だと考えます。

一方、リーダーとしては、分担したプロジェクトの目的達成に向け、疑問を出して課題を確認し、そこから提案を考えて参りました。それは、プレッシャーもある一方で啓発されることもありました。特にメンバーのいろいろな経験に基づく情報は検討を進める上で役に立ちました。多彩なアイデア・視点を頂いたこともヒントになりました。そして、より良い麻布を目指すメンバーの皆さんの熱き想いを感じたことはうれしく思います。

ただ、分野Ⅰは、区民にあまり身近ではないプロジェクトもあり、課題がなかなかつかめず、議論の時間がもう少しあれば、と感じたことがやや残念でした。しかし、メンバーで知恵を出し合ったこの提言が、これからの輝く麻布への一助になれば幸いに存じます。



**和藤 誠治 Seiji WATO 分野Ⅲはぐくむまち**

メンバーや事務局の方々とお話しする過程で、日常生活しているあざぶのこと、でも知らない、気付いていないことを、たくさん知り、気付くことができました！今後の生活に役立てていければと思います！

# “麻布の中心で、愛をさけぶ”



## 鈴木 健 Takeshi SUZUKI 事務局（協働推進課長）

この度は麻布地区政策分科会にご参加いただき、誠にありがとうございました。分科会の皆さまにおかれましては、様々なお立場での知見を活かし、長時間のご議論と骨太の提言書を策定されたことに対しまして、あらためて、この場をお借りして敬意と感謝を申し上げます。

今、港区は、すべての世代で人口が増え続け、転出者を上回る方々が続々と転入している状況です。これまで町会・自治会といった地縁的なコミュニティにも変化の大波が押し寄せ、多様な価値観の方々が、各々のアプローチで地域との関わりを持つようになり、地域コミュニティの在り方自体が大きな変革期を迎えています。

「住民による自治」を画餅としないためには、様々な地域課題に対し、多様な主体それぞれが主役となって「我が事」として取り組んでいく、すなわち「みんなでまちをよくしていく（つまり“ミナヨク”）」活動の意義が更に重要性を増してまいります。協働推進課としましても、分科会の皆様を始め、地域の皆様との参画と協働を柱に、魅力ある麻布のまちづくりに向けて邁進してまいります。

この度、分科会にご参加いただいた全ての皆さまが、麻布地区を舞台に、更なるご活躍をされますことを心より御祈念いたします。ありがとうございました。



## 板橋 勝之 Katsuyuki ITABASHI 事務局（地区政策担当係長）

ついに完成！継続メンバーと新規メンバーがONE TEAMで作り上げた、麻布への愛を形にした一冊。

これが実現できれば、子どもから高齢者や外国人まですべての人がルールを守り、麻布の今と昔を繋ぎ、交流を深め、みんなでまちをよくする AZABU WORLD ができる日も遠くないと思います。

AZABU WORLD の実現を目指して頑張ります。今後ともよろしく願いいたします。



**遠藤 由香里 Yukari ENDO 事務局（協働推進係）**

今年度、皆様の参加動機が多かったキーワードが「地域貢献」でした。

「自分たちが住むまちをより良くしたい！」という気持ちがあふれたグループ討議。運営面でも、色々アイデアをいただきました。プレ分科会で、委員経験者が新しい委員にこれまでの体験談をご紹介されたり、提言書に掲載する写真撮影の傍らで、委員同士が交流を深めるなど、今年度の分科会活動は、型にはまった会議形式ばかりでなく、多彩な内容となったように思います。

また、昨年度も、委員のご提案で、区政や麻布地区の地域事業等を学ぶことに重きをおいて分科会を開催しました。1年間中断せず積み重ねた活動が、今年度の活発な議論につながったと感じています。

これらの内容は、私たち事務局だけでは考えつかないものでした。

分科会からの提言を踏まえ、今後、より良い地域事業を展開していくためには、皆様のお力添えが欠かせません。区から、委員のお勤め先やご家族の方々へ、委員の地域活動に対するご理解とご配慮をお願いしていくとともに、区民参画組織の活動そのものを、もっと広く、多くの方に知っていただくことも必要だと感じました。

委員の皆様におかれましては、日々ご多忙の中、貴重なプライベートの時間を、麻布地区政策分科会の活動に充てていただきましてありがとうございました。

今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

# “麻布の中心で、愛をさけぶ”



**藤森 真一 Shinichi FUJIMORI 支援事業者（一般財団法人日本開発構想研究所）**

麻布の提言書作成の支援は今回で2回目になる。

今回も前回と同様に個性ある熱いメンバーが集まった。

皆麻布のことをよく知っている、体験している根っからの麻布人。

そんなアベンジャーズを相手に支援事業者としてどんな支援ができたのか、反省することも多々あるが、ともあれ今回の提言書もこだわりの逸品に仕上がりに、遙か彼方の銀河系で... ほっとしている。



**大橋 俊平 Shumpei OHASHI 支援事業者（一般財団法人日本開発構想研究所）**

「麻布好きですかあ〜？」っと問われても、色々な麻布がありまして、ぐずぐず云々・・・好きとも嫌いとも何とも言えないなあ、・・・なんて思っていました。支援事業者としてとはいえ、麻布地区政策分科会の活動に関わりを持ったことにより、好きとか嫌いとかではなく「ただ麻布に居るっ！ どうあれ麻布に自分は居るのだっ！ 麻布を想ってココに居るっ？」みたいな気持ちになりました。

すっかり気持ちは麻布の人です。気持ちが入りすぎました・・・「提言書」をまとめる・・・まとまり切らない想いはどうしよう???そんな悩みでぐずぐずした日々を麻布に居って過ごしています。



**大木 敦子 Atsuko OKI 支援事業者（一般財団法人日本開発構想研究所）**

麻布の住人ではありませんが勝手に麻布人であると思っています。

提言書の作成に携わらせていただき、今では坂の名前を聞いただけで場所が分かるまでになりました。自分の住んでいるまちよりはるかに詳しくなっています。

度々感じていたのは、変化するものとしなないもののギャップです。そのギャップを埋めるのか、許容するのか。いずれにせよ、そこには“人ありき”でメンバーの皆様それぞれが討議されているのを感じました。

まちとは、人がいないと成り立たないものだと改めて実感しています。

麻布って面白いなあ・・・。少しの憧れと羨望を込めて。

# フォトギャラリー ～麻布地区政策分科会写真館～

第4回分科会  
令和元年8月28日(水)



麻布未来写真館  
in  
ちよこっと立ち寄りカフェ  
令和元年10月2日(水)



第5回分科会  
令和元年9月12日(木)



第6回分科会  
令和元年10月17日(木)



第7回分科会  
令和元年11月12日(火)

第8回分科会  
令和元年12月11日(水)



## 3 麻布地区政策分科会について

### 目的

区民参画組織 麻布を語る会 麻布地区政策分科会は、港区麻布地区総合支所が、令和3年度からの次期港区基本計画・麻布地区版計画書の策定に向け、麻布地区に住み、働き、学ぶ皆様の声を最大限反映するために設置された分科会です。

委員は、公募により参加する麻布地区の在住者、在勤者で構成されています。

この分科会は、委員一人ひとりが主体となって、麻布地区の将来を、麻布地区総合支所と共に考え、港区基本計画・麻布地区版計画書について相互に意見を交換し、複数回の会議によって合意形成を進め、まとめたご意見を区へ提言することを目的としています。

#### 委員の任期

平成30年4月～平成31年3月（1年間）

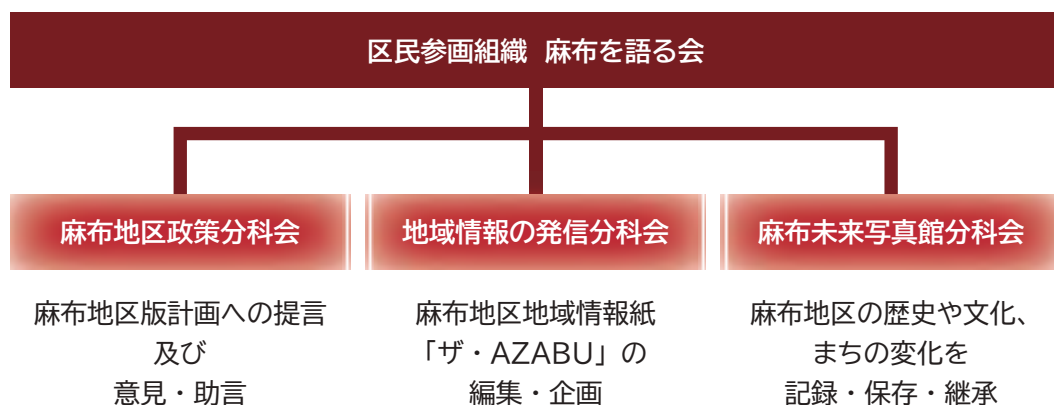
平成31年4月～令和3年3月（2年間）

#### 区民参画組織 麻布を語る会

麻布地区総合支所は、港区基本計画・麻布地区版計画書の策定や事業の執行などの段階で、区民が区政に参画しやすい環境を整え、積極的な区民参画を働きかけています。

「区民参画組織 麻布を語る会」は、公募により参加する区民の方々と共に、地域の課題を一緒に考え、麻布地区の魅力を高め、より住みやすいまちにするために、平成18年7月に設置しました。

現在、「麻布地区政策分科会」、「地域情報の発信分科会」、「麻布未来写真館分科会」の3つの分科会が活動しています。



## 令和元年度の活動概要

日 程	内 容
プレ分科会 平成31年4月24日(水)	麻布地区政策分科会の運営について 港区の概要 港区基本計画・麻布地区版計画書(地域事業)の概要
第1回分科会 令和元年5月16日(木)	麻布地区政策分科会の運営について 麻布地区総合支所の業務概要 港区基本計画・麻布地区版計画書に関するアンケート調査の概要 グループでの自己紹介 座長・副座長の選任について
第2回分科会 令和元年6月28日(金)	座長・副座長の選任について 港区基本計画・麻布地区版計画書策定に向けたスケジュールについて グループ討議(自己紹介及び地域の魅力と課題の共有) 全体討議(グループ討議の報告及び意見交換)
第3回分科会 令和元年7月16日(火)	前回までの振り返りと本日の流れについて グループ討議(各地域事業の課題抽出・共有) 全体討議(グループ討議の報告及び意見交換)
第4回分科会 令和元年8月28日(水)	次期麻布地区版計画書の策定に向けたスケジュールについて 区民アンケート調査結果の概要について グループ討議(各地域事業の課題・提言作成に向けた方向性のまとめ) 全体討議(グループ討議の報告及び意見交換)
第5回分科会 令和元年9月12日(木)	提言作成に向けたスケジュールについて グループ討議(地域事業の評価及び検証) 全体討議(グループ討議の報告及び意見交換)
第6回分科会 令和元年10月17日(木)	提言作成に向けたスケジュールについて グループ討議(地域事業の改善点について) 全体討議(グループ討議の報告及び意見交換)
第7回分科会 令和元年11月12日(火)	提言作成に向けたスケジュールについて グループ討議(地域事業の改善点について) 全体討議(グループ討議の報告及び意見交換)
第8回分科会 令和元年12月11日(水)	提言作成に向けて グループ討議(地域事業の改善提案等のまとめ) 全体討議(グループ討議の報告及び意見交換)
第9回分科会 令和2年1月30日(木)	提言書の構成について 提言式について 写真撮影(集合写真、個人写真)
提 言 式 令和2年3月27日(金)	武井雅昭区長に提言書を提出 ※提言式は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、中止



## 委員構成（委員名簿）

相賀 由紀子	分野Ⅰメンバー	佐藤 美恵	分野Ⅲメンバー
大竹 葉子	分野Ⅱメンバー	塩谷 彩奈	分野Ⅱメンバー
岡本 進	分野Ⅰメンバー	城川 三次郎	分野Ⅱメンバー
鍵谷 芳勝	分野Ⅰメンバー	田中 亜紀	分野Ⅲメンバー
加生 美佐保	分野Ⅰメンバー	堂園 柁美	副座長・分野Ⅱメンバー
片岡 佳和	分野Ⅱメンバー	橋本 吉明	分野Ⅲメンバー
河又 麻里子	分野Ⅱメンバー	堀山 正雄	分野Ⅲメンバー
北野 健二	分野Ⅲリーダー	峯崎 恵紀	分野Ⅱメンバー
金原 優子	分野Ⅲメンバー	森田 麻耶	分野Ⅱリーダー
胡 世梅	分野Ⅱメンバー	唯是 一寿	座長・分野Ⅰメンバー
小池 太	分野Ⅰサブリーダー	吉野 茂	分野Ⅲサブリーダー
小島 孝治	分野Ⅲメンバー	吉松 正敏	分野Ⅰリーダー
古平 真	分野Ⅱメンバー	和藤 誠治	分野Ⅲメンバー
佐々木 和志	分野Ⅱサブリーダー		

（50音順）

※名簿への掲載は、出席率おおむね6割以上の委員のみとしています。

### 【事務局】麻布地区総合支所 協働推進課

協働推進課長 鈴木 健  
地区政策担当係長 板橋 勝之  
遠藤 由香里

### 【支援事業者】一般財団法人日本開発構想研究所

藤森 真一  
大橋 俊平  
大木 敦子

## 平成 30 年度の活動概要

令和元年度の提言作成に向けて、麻布地区総合支所が平成 29 年度に見直しを行った港区基本計画・麻布地区版計画書の内容や行政の仕組み等を学び、グループ討議を行いました。委員のうち、今年度も引き続き分科会へ参加した約半数の方々は、平成 30 年度の分科会活動で学んだ知識、経験を生かして、令和元年度新規委員の活動をフォローしています。

日 程	内 容
プレ分科会 平成30年4月24日(火)	麻布地区政策分科会の運営について 港区基本計画・港区実施計画について 港区基本計画・麻布地区版計画書(地域事業)について
第1回分科会 平成30年5月23日(水)	座長・副座長の選任について 講演会「地域自治における住民自治組織」 講師:公益財団法人地方自治総合研究所 新垣 二郎 氏
第2回分科会 平成30年7月19日(木)	講義及びグループ討議 テーマ「港区基本計画について」 講師:港区企画経営部企画課企画担当係長 毛塚 健太
第3回分科会 平成30年10月4日(木)	他地区の地区版計画書(地域事業)について
第4回分科会 平成30年11月14日(水)	グループ討議 テーマ「麻布地区版計画書(地域事業)の進捗について」
第5回分科会 平成31年2月7日(木)	グループ討議 テーマ「麻布地区版計画書(地域事業)の進捗について」 平成31(2019)年度の分科会運営について



### 外国人へのルールの徹底

鍵谷 芳勝

港区は大使館、領事館や外資系企業が多く、外国人居住者が港区の人口の1割を占める外国人が多い地区です。

そこで私が感じるのは、もちろん日本人もそうですが、外国と日本の文化の違いからか、特に日本人の基本ルールを守らない外国人が多いのが目につきます。

港区を国際的な地区として将来発展させていくには、住民と外国人に日本のルールを守る最低限のマナーを身に付けさせる啓発活動を区政で行えないものかと考えます。

ルールを守らない外国人に注意を促すと「外国人に対する差別だ」「お前は警察官か、警察官でなければ注意するな」「俺達には俺達のルールがある、俺達の国では許されているのだ」とか反論してくる外国人がいます。

そのような経験から公の力を借りないと（彼らは公権力を恐れる傾向があります）個人個人の力では限界があると考えます。

## わかりやすいハザードマップを

加生 美佐保

『港区浸水ハザードマップ 令和元年9月』は、オモテ面の浸水区域および浸水深の変更がわかりやすく色分けされ、全体として、平成 30 年 8 月版より見やすくなりました。

しかし、今回変更の主目的であるウラ面の「災害に関するレベルの運用開始について」の表で、「内容」の「レベル4」と「レベル3」に「避難する」という語が使われています。東日本大震災発生時にテレビで呼びかけた言葉は「にげて（逃げてください）」であり、「避難してください」とは言われませんでした。いざというとき、声をかけ合うのは「逃げろ！」です。江戸川区の『水害・洪水・高潮ハザードマップ（2019年5月発行）』には「逃げる準備」や「逃げてください」という言葉が使われ、やはり危機感が違うように思われます。

総務省消防庁が「避難」と表現していても、港区では、たとえば

レベル 2：どのように逃げたらよいかを具体的に確認しておきましょう。

レベル 3：お年寄りや障害者、乳幼児ならびにその保護者や支援者は早く逃げて、その他の人も逃げる準備をして逃げ始めてください。

レベル 4：早く全員が避難先へ逃げてください。行くのが危なければ、近くや自宅の安全な場所に逃げてください。

等の表現はいかがでしょうか。

多様さが共生する港区なので、「やさしい日本語」を考慮した「わかりやすい日本語」での表記を心がけていただきたいと願っています。

## 区民の知恵を区民のために活かせる環境を

小島 孝治

麻布地区政策分科会に参加してみて感じたことは、本当に区民のために（ひいては自分のためにも）協力したいと思える活動できる方が沢山おり、さらにその方々が専門家含め様々なノウハウをお持ちだということです。しかし今は協力したくても仕組みがないのですが、逆に仕組みさえあれば区民にとって有益な情報が集約できるのではと考えます。また現在、区民（特に高齢者）の悩みに少し踏み込み総合的に対応できる窓口がありません。このためほかの自治体に無いような親切なサービスがあるにもかかわらず、そこにたどり着けないケースも多く目にします。ポテンシャルがあるのに有効活用できていない、まさにそのような状況かと思われ

ます。行政として個人の「要望の声」にすぐに対応するのが難しい場合は、一部（了解の上）公開することで「既にある仕組みで要望を解決する方法」もまた区民から集められます。しかしこれらを民間主導で進めるとどうしても利益相反という問題に直面し、特定の利益につながる商品やサービスへの誘導が避けられません。その点、行政主導だからこそ区民の利益に資する情報提供が実現できる可能性が生まれるのではと思います。

現実には自分で抱えきれない問題があり区に相談しても、「それは区では受けられません。方法はご自身で考えてください。」と突き放される場合があります。確かにその時点で対応するサービスが無ければできないですし、どこか特定の民間企業を紹介することに否定的な考え（実際対応している自治体はあります）も理解できますが、結果突き放された区民は知識の無さから被害にあうという結果につながる場合があります。特にお金が絡む大きな問題の場合、適切な方法で検討しなければ取り返しのつかない事態にもなりかねません（さらに港区の税収も減りかねません）。そうならないためにも様々な知恵やノウハウを共有する仕組みがあればと願います。仕組み自体に新たに大きな費用がかかるものではなく、既にある人材や環境で実現できることも多々あるかと思えます。

日本の高度成長を支えた団塊世代の方がまもなく後期高齢者となりますが、港区民は国を支えてきた中枢にいた方も多く本当に様々なノウハウや解決策をお持ちです。そして大半は健康で聡明で力を持て余している状況だと思いますし、今まさにその方の知恵を必要としているタイミングでもあります。高齢者の社会進出も含め、港区ならではの活性化が実現することを願っています。

※少なくとも、一区民である私が港区にいるうちは全力で協力致します！





# AZABU 2020

港区基本計画・麻布地区版計画書策定に向けた提言書

令和2(2020)年3月

区民参画組織 麻布を語る会 麻布地区政策分科会



# 麻布

## AZABU 2020



区民参画組織 麻布を語る会 麻布地区政策分科会

Azabu Council “Azabu wo Kataru-Kai” Azabu Regional Policy Advisory Committee

麻布研讨会 麻布地区政策小组委员会

아자부를 말하는 모임 아자부지구 정책 분과회